「コロナ禍を超えて」

福井工業高等専門学校
地域連携テクノセンター長

松　井　栄　樹

令和２年３月頃から全国的に未知の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が見られ、令和２年度に入っても拡大傾向は収まらず、収束するかに見えても６月中旬頃から第２波、10 月末頃から第３波、３月中旬頃から第４波の感染拡大が起こっている。本校では昨年度は８月末まではオンラインでの講義を実施､9 月より前期の実験実習科目と面接授業での復習､10 月下旬より面接での後期授業を行い、何とか令和２年度を終えることができたが、現時点で令和３年度の先行きは不透明である。

新型コロナウイルス感染症により、昨年度当初、多くの学校が休校となり、気持ちを新たにスタートしたい新入生や在校生の出端を挫いた。学校が再開しても、マスクを着用の上、距離を保ち、大声でしゃべらず、向き合って飲食をしない等を厳守する必要があり、以前のように気楽には交流ができず､人との距離を縮めるのが少し難しい世の中となった。また､不要不急の外出を避ける傾向が続き、これまでの消費行動が大きく変化し､また需要そのものも蒸発してしまった業種も多く見られている。企業も学校も個人も、社会全体が大きな打撃を受け、回復にはほど遠い状態であり、まずは自身の日常生活を大過なく過ごせることを第一として、日々努めているのではないかと思います。

このような制約が絶えずつきまとうウィズコロナ時代に、地域連携テクノセンターは、どのように活動し、自らを活性化させ、地域のお役に立つことができるのでしょうか。私たちは自身の技術を発展させるだけでなく、地域に発信し、その技術により少しでも社会貢献できればと思っています。
「愛とはお互い見つめあうことではなく、共に同じ方向を見つめることである」星の王子さまで有名なアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの言葉です。まず、共に道を歩み、一緒に同じ方向を見ていくこと。また、互いに話し合い、お互い行動することで、方向を一致させること。

この「JOINT2021」には、本校教職員が試行錯誤しながら取り組んでいる教育研究に関するシーズが詰まっています。さらに本校では「地域連携アカデミア」という外部組織を立ち上げており、会員になっていただいている学外の方々と、本校教職員や卒業生、学生を引き込んだ連携について模索しながら活動をしています。また、今年度より専門知識を有するリサーチアドミニストレーターを配置した FK-RA オフィスを開設し、研究プロジェクトの企画運営から研究成果の社会還元まで一貫した研究支援、産官学連携の推進に取り組んでいます。

この冊子をご覧になり、興味がある事項についてお気軽にお問い合わせいただければ、本校教職員がお話しを伺って問題、課題を共有し、ともに解決に向け取り組みます。
このような状況下だからこそ、私たちは皆様とともに歩み、成長していきたいのです。